

【広島市消費者物価指数】

1 平成 26 年 1 月の動向

- 広島市総合指数（100.1）は前月比で 2 か月連続の下落。前年同月比は 7 か月連続の上昇。
- 生鮮食品を除く総合指数（99.9）は前月比で 2 か月連続の下落。前年同月比は 7 か月連続の上昇。
- 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数（98.0）は前月比で 3 か月連続の下落。前年同月比は 4 か月連続の上昇。

2 総合指数、生鮮食品を除く総合指数、食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数

	指 数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
総 合 指 数	100.1	▲0.2	1.3
生鮮食品を除く総合指数	99.9	▲0.3	1.1
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数	98.0	▲0.5	0.7

3 前月からの動き

～食料は上昇、被服及び履物は下落。～

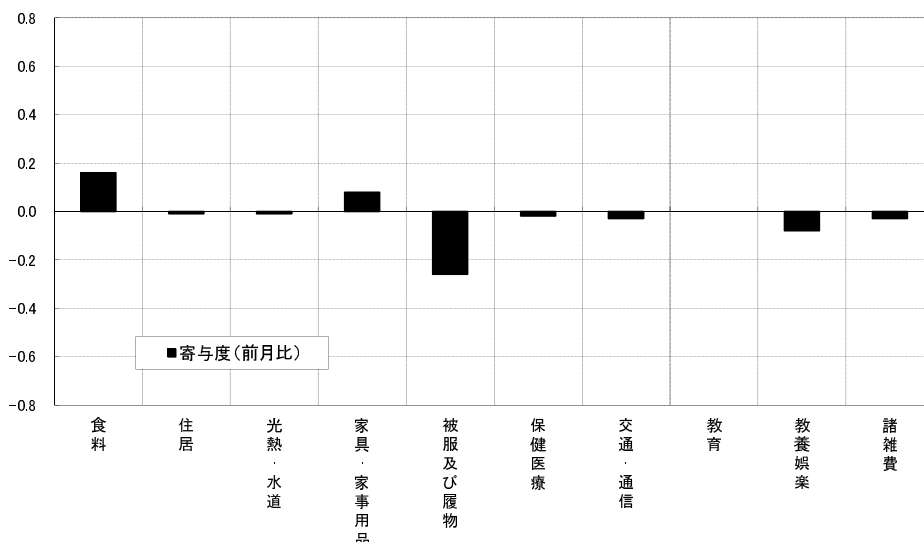
(1) 10 大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指 数	100.1	101.6	98.5	108.9	92.3	98.2	98.0	102.3	98.8	92.8	106.3
前月比 (%)	▲0.2	0.6	0.0	▲0.1	2.3	▲5.6	▲0.4	▲0.2	0.0	▲0.7	▲0.4
寄与度	▲0.2	0.16	▲0.01	▲0.01	0.08	▲0.26	▲0.02	▲0.03	0.00	▲0.08	▲0.03

(参考) 主な要因となっている 10 大費目について、寄与の大きかった中分類項目

食 料：果 物（前月比 12.6%，寄与度 0.12）等
 被服及び履物：洋 服（前月比 ▲9.7%，寄与度 ▲0.19）等

図 1 10 大費目別前月比寄与度



(注) 寄与度：物価全体（総合）の上昇（下落）に、各費目がどれだけ影響したかを示したもの。本来、寄与度の合計は、総合指数の前（年同）月に対する変化率となるが、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目 (寄与度順)

上 昇		下 落	
項 目 (主な品目名)	前月比	項 目 (主な品目名)	前月比
果物 (いちご 等)	12.6%	洋服 (婦人コート 等)	▲9.7%
家庭用耐久財 (ルームエアコン 等)	6.4%	教養娯楽サービス (外国パック旅行 等)	▲1.3%
野菜・海藻 (キャベツ 等)	1.3%	乳卵類 (鶏卵 等)	▲4.8%
肉類 (牛肉[国産品] 等)	1.9%	他の被服類 (マフラー 等)	▲9.5%
教養娯楽用耐久財 (テレビ 等)	1.5%	シャツ・セーター類 (婦人セーター[長袖] 等)	▲2.9%

4 前年同月からの動き

～食料及び光熱・水道は上昇、住居は下落。～

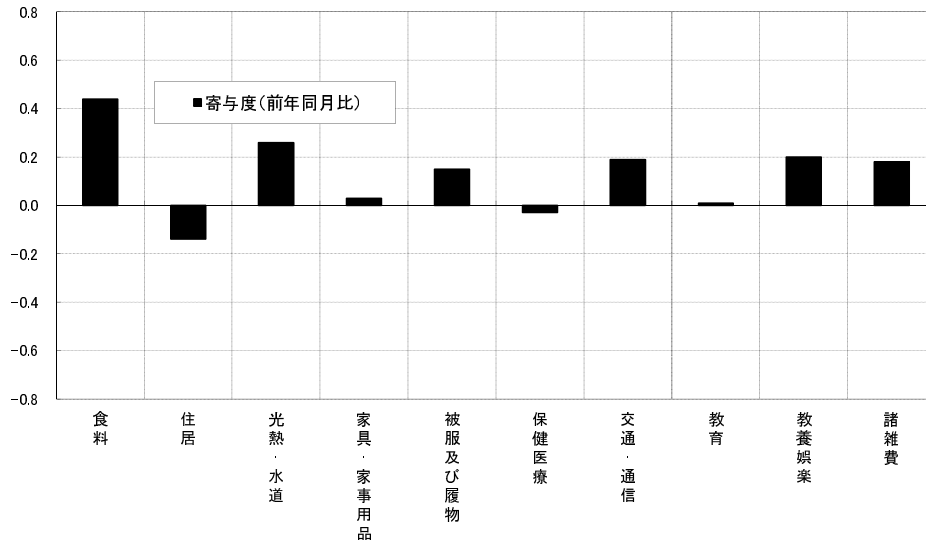
(1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
前年同月比 (%)	1.3	1.7	▲0.7	3.3	0.7	3.6	▲0.7	1.4	0.4	1.9	2.8
寄与度	1.3	0.44	▲0.14	0.26	0.03	0.15	▲0.03	0.19	0.01	0.20	0.18

(参考) 主な要因となっている 10大費目について、寄与の大きかった中分類項目

食 料：魚介類 (前年同月比 8.3%, 寄与度 0.18) 等
 光熱・水道：電気代 (前年同月比 4.3%, 寄与度 0.16) 等
 住 居：家賃 (前年同月比 ▲1.0%, 寄与度 ▲0.16) 等

図2 10大費目別前年同月比寄与度



(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目 (寄与度順)

上 昇		下 落	
費 目 (主な品目名)	前年同月比	費 目 (主な品目名)	前年同月比
教養娯楽用耐久財 (テレビ 等)	17.8%	家賃 (持家の帰属家賃 等)	▲1.0%
魚介類 (さけ 等)	8.3%	教養娯楽用品 (トレーニングパンツ 等)	▲5.1%
自動車等関係費 (ガソリン 等)	2.3%	穀類 (うるち米 等)	▲2.1%
他の諸雑費 (傷害保険料 等)	8.0%	飲料 (野菜ジュース 等)	▲2.6%
電気代 (電気代 等)	4.3%	家事用消耗品 (台所用洗剤 等)	▲3.5%